

2019. 12. 1

畑 啓之

「胃ろう」はもう時代遅れか？ 栄養と薬剤を直接に供給する「CV ポート」とは

胃ろうはよく知られた栄養および薬剤の供給方法であるが、CV ポートは直接静脈に栄養および薬剤を送り込む方法である。この CV ポートという言葉はまだ一般にはあまり知られていないかもしれない。完全埋め込み型中心静脈アクセスポート (totally implantable central venous access port : CV ポート) であり、がん患者の化学療法を安全に行う目的で、1982 年に世界で初めて報告された。

胃ろうにおいては胃内に送り込んだ栄養分を患者が消化して生命維持のために用いる。これに対して、CV ポートでは生命維持のための栄養を直接に動脈に供給する。従って、消化機能が低下した患者にも効果的にその栄養維持効果を発揮できることになる。薬剤についても同様であり、胃ろうの場合には経口の場合は消化管で吸収されて血液へと運ばれるが、CV ポートでは直接に血液中に投与することが可能である。

胃ろうと同様、CV ポートでの治療（多くの場合は延命措置）は高齢者に為されているようである。従って、CV ポートに関しても、胃ろうと同様の問題を含む。下に引用した胃ろう (Wikipedia) ではその問題点として「老衰やガンの終末期においては平穏死・尊厳死の観点」が挙げられている。

いよいよ本格的な高齢化社会を迎え、自身のいのちの終わりをどのように演じるのか？ これは個々人の問題であるが、その実態は家族をも巻き込んだ社会的問題である。会社員であった現役時代には介護退社という厳しい現実や、そこには至らないものの、多くの時間制限を受けざるを得ない多くの社員の姿を見てきた。その当時よりも現在の状況は悪くなっているだろう。

胃ろう、あるいは CV ポートの適用に関しては下の日本老年医学会「高齢者の終末期の医療およびケアに関する立場表明 2012」がある。家族との対話により、終末期への希望を明らかにしておくことがあたりまえとなっていく世の中が、もうそこに来ていると感じられる。

胃瘻 (いろう、Wikipedia)

腹壁を切開して胃内に管を通し、食物や水分や医薬品を流入させ投与するための医療措置である。人工的水分・栄養補給法とも称する。

食物や飲料や医薬品などの経口摂取が不可能または困難な患者に対し、人為的に皮膚と胃に瘻孔作成、チューブ留置し、食物や水分や医薬品を流入させ投与するための処置である。1980年代にアメリカ合衆国において上部消化管内視鏡を用いての内視鏡的胃瘻造設術が開発され、世界的に普及し広まった。

適用外

下記の条件の少なくともどれかひとつに合致する場合は胃瘻の造設は行わない、または、造設済みの胃瘻からの人工栄養投与を中止する。

老衰やガンの終末期においては平穏死・尊厳死の観点から。

患者本人または家族が胃瘻造設と人工栄養や水分や医薬品の投与による生存を望まず拒否した場合。

胃や腸の機能に病気や障害があり、人工栄養を消化吸収することが不可能または困難な場合。

妊娠中。

内視鏡が使用不可能な身体状況の場合。

胃瘻からの出血が継続し収束しない場合。

胃前壁を腹壁に近接できない場合。

著しい肥満で腹壁から胃内に胃瘻チューブが届かない場合。

胃瘻に対する問題提起

日本では終末期の認知症や老衰の人にも積極的に胃瘻がつくられるようになった。その多くはいわゆる寝たきりの高齢者である。その現状に対して、日本老年医学会は「高齢者の終末期の医療およびケアに関する立場表明 2012」を発表した（2012年1月28日）。そのなかで、「胃瘻造設を含む経管栄養や、気管切開、人工呼吸器装着などの適応は、慎重に検討されるべきである。すなわち、何らかの治療が、患者本人の尊厳を損なったり苦痛を増大させたりする可能性があるときには、治療の差し控えや治療からの撤退も選択肢として考慮する必要がある。」と述べている。

資料 CVポートとのこれから

日本コヴィディエン株式会社



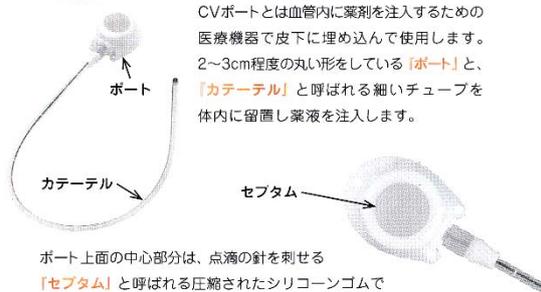
はじめに

CVポート(皮下埋め込み型中心静脈ポート)は前胸部などの皮膚の下に埋め込み、皮膚の上からこのCVポートに針を刺すことによって、薬剤を中心静脈とよばれる太い静脈内に確実に注入することのできる医療機器です。近年、在宅での高カロリー輸液による栄養管理や悪性腫瘍に対する抗がん剤治療などが積極的に行われるようになっており、これら長時間の点滴や頻回の点滴治療を必要とする患者様には、CVポートの留置は必要不可欠の手技となっています。この小冊子はCVポートに関して、患者様に正しく理解して頂くことを目的として作成しました。この小冊子を参考にさせて頂いた上で、担当医とよく御相談の上、治療に臨んでください。

もくじ

1	CVポートとは	2
2	CVポートを埋め込む場所	3
3	CVポートのメリット	4
4	CVポートを埋め込む方法	5
5	CVポートを用いた治療方法	7
6	CVポートの管理方法について	9
7	知っておきたいトラブルについて	10
8	CVポートに対するQ&A	11

1 CVポートとは?

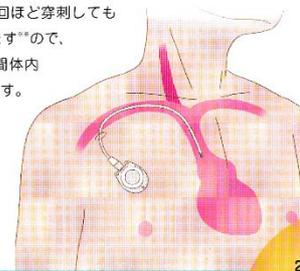


CVポートとは血管内に薬剤を注入するための医療機器で皮下に埋め込んで使用します。2~3cm程度の丸い形をしている「ポート」と、「カテーテル」と呼ばれる細いチューブを体内に留置し薬液を注入します。

ポート上面の中心部分は、点滴の針を刺せる「セプタム」と呼ばれる圧縮されたシリコンゴムでできています。このセプタムに皮膚の上から針を刺し薬液を流すことで、ポートからカテーテルを通り薬液が血管内に注入されます。

セプタムは専用の針を2000回ほど穿刺しても液がもれないようにできています*ので、ポートやカテーテルは、長期間体内に留置しても安全に使用できます。

* 22Gノンコアリングゴードル
** 社内試験による

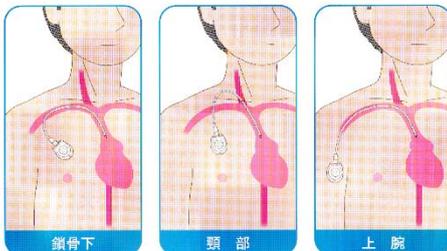


2 CVポートを埋め込む場所

ポートは、一般的に鎖骨の下の胸部や腕の皮膚の下に埋め込まれます。胸にポートを埋め込む場合は、カテーテルは同側の胸や首の静脈から、また、腕にポートを埋め込む場合は、同側の腕の静脈から挿入されます。

なおカテーテルの先端は、中心静脈という心臓に近い太い血管の中に留置されます。

留置され傷が癒えると少し体表上盛り上がるだけでポートはほとんど目立たなくなります。



3 CVポートのメリット

皮膚の上から専用の針を使って、容易に薬剤を注入することができます。

CVポートがあると…

● 苦痛を軽減

直接血管に注射するのに比べ、何回も腕の血管に刺し直されずに済みます。

● 刺激の強い薬剤による皮下の腫れ、血管の痛み(血管炎)の軽減

カテーテルを通して心臓近くの太い血管に薬液を流すことができ、刺激が軽減できます。

薬液注入時以外は埋め込まれており、体に接続しているものはありませんので、

● ほとんど行動制限がない(激しい運動は除く)

● 在宅治療に役立つ

